

中国農村孤児の苦境とゆくえ

——江蘇省常州市の調査から——

キーワード：子どもの権利，社会的養護，戸籍制度，農村孤児，子どもの貧困

人間共生システム専攻
周 華

1 問題と目的

現在中国において要保護児童の上位3位はそれぞれ留守児童、障害児、孤児である。この状況を踏まえ、中央政府は様々な政策を打ち出した。研究者による研究も多くなされ、政府は留守児童や障害児への支援に力を入れてきたが、孤児への支援は依然として不十分である。親族ネットワークの崩壊により、新たな問題にさらされている孤児たちに対して、どのように支援をしていくのかは重要な問題だと考えられる。

したがって、本論文は要保護児童の諸問題から孤児問題に注目し、特に農村孤児に焦点を絞った。次に農村孤児に注目する2つの理由を述べていく。

まず、農村孤児の数は中国の孤児総数の大半を占めている現状がある。2013年第4期「社会保障統計報」によれば、中国(香港、台湾を除く)における現在の孤児の総数は約55.6万人であり、その中で農村部における孤児は86.3%を占めている。農村部における孤児は主に祖父母や親族里親に養育されている。彼らは都市部における孤児と比べ、家庭環境の変化によって生じた影響をより受けやすいといえる。なぜなら都市部における孤児はほとんど施設で養育され、早い段階から家庭環境から離脱しており、親族ネットワークの希薄化によりもたらされた影響をあまり受けていないからである。

農村孤児に注目しなければならないもう1つの大きな理由として、中国独特の戸籍制度によって農村孤児が都市孤児と比べるとより不利な状況に置かれていることが挙げられる。中国は1958年以降、異なった戸籍制度のもと二元的な社会構造が構築された。さらにこの体制はとりわけ農村にとって厳しく、一貫して農村は劣位に固定化されてきた。そして都市と農村の間には、国の政策によって少なからぬ経済格差が生まれ、さまざまな待遇上の差異が存在することとなり、さらに福祉、医療、教育などを加味した社会生

活においては、越えがたい生活の質の格差違いが生じた。農村戸籍を有する孤児は都市戸籍を有する孤児と比べ、様々な面では不均等な待遇に直面している。現在中国の孤児分布状況については、集中養育(施設養育)の孤児数が約9.4万人であるのに対し、社会散居(家庭的養育)の孤児数は約46.1万人である(民政部2013)。『国家責任及び児童福利』によると、多くの社会散居孤児は農村部に集中している。また、そのうち援助を受けている農村の孤児の比率は都市部の孤児に比べてかなり低いことも、この調査によって明らかになった(民政部2005)。このように、中国における孤児問題を緩和するために、農村孤児問題への支援は見逃すことができない。

以上のように、数多くの農村部の孤児が福祉、医療、教育などの面で不利な状況に置かれている。そこに焦点をあて、農村孤児の実態を明らかにし、よりよい支援のあり方を探るのが本研究の目的である。

2 先行研究

近年の中国における児童を取り巻く社会状況の変化や児童のニーズを把握し、児童福祉に関する政策課題や、子育て支援体制のあり方を検討した研究は複数存在する。

これまでの研究の多くは児童福祉制度サービス、特に施設養護および里親制度に関する研究として報告されている。例えば、陸士禎は『中国児童政策概論』を発表し、中国の現段階の児童福祉に関する政策を紹介した(陸士禎2005)。鄒明明は2011年に『健全孤児基本生活保障制度の実践及び思考』を発表し、中国全体の児童の生活状況の紹介および考察を行った(鄒明明2011)。金潔によると、より多くの熱意を持った里親の育成のために、里親委託に対する認識

を社会一般に浸透させていくことが重要であり、さらに講習会など里親が専門知識を身につける機会を作ることが望まれると同時に、施設職員の専門性も高めていかななくてはならない(金潔 2003)。そして中国の孤児問題の現状について沈潔は、孤児増加の問題は生活保障の問題だけにとどまらず、教育格差の問題、就業格差の問題、さらに孤児の精神的発達に関わる問題など多岐にわたって波及しているのが現実であり、彼らの生存権や教育を受ける権利を全て実現するのは困難であり、実際に一部の者は売春や売血、薬物犯罪に走っていると述べている(沈潔 2007)。また「児童福祉研究論文」において、その大半は海外の児童福祉関連制度・政策の紹介という段階にとどまっている。例えば、韓晶晶は2012に発表した『児童福祉制度比較研究』という著書で、アメリカ、スウェーデン、ノルウェー及びオーストラリア4つの国の児童福祉制度を紹介し、それと比較しながら中国の児童福祉制度を簡単に考察した(韓晶晶 2012)。

しかし、社会環境の多様化の中で、児童福祉ニーズを踏まえた中国国情特有の児童問題に対応可能な児童福祉制度については十分な議論がなされていない。そして、中国の児童問題については、主に経済面、制度面の支援の面から論じられてきた。そのため社会学の視点からみる孤児の生活実態例は極めて少ない。

中国の児童福祉制度が諸外国と比較すると、まだ整備されていない状況について、数値的な側面から検討するだけでなく、児童福祉問題の背景の推移や中国の社会的・文化的要素を踏まえた児童福祉のあり方などを明確にしておく必要があると考えられる。そして、支援を必要とする児童とその家庭の背景や状況を十分に把握することは、児童の健全な発達環境の改善を進めていく際に必要不可欠であるのは言うまでもない。

3 方法

1) 資料収集、ケースファイル調査

◎中国全体の孤児状況の把握

2005年に実施した「全国孤児調査」の調査結果のデータ資料を収集した。また、中国における既存の孤児への保障制度、社会的救済の方法、政策組織や非政府組織の発展、

児童養護方式を把握するために、文献を収集し整理した。

◎常州市の孤児の全体状況の把握

常州市民政部の調査協力を得て、孤児の人数、地域分布、養育方式などを整理した。

2) 半構造化インタビュー調査

◎常州市児童福祉施設の施設長の協力を得て、孤児であった人を紹介してもらい、1名の対象者に半構造化インタビューを行った。

◎常州市の郊外にある2つの町の町長を訪問し、政府側に登録されていないが事実上孤児である、もしくは孤児であった人がいるかどうかを尋ね、条件にあった人に協力を得て4名の方に半構造化インタビューを行った。

3) 分析視点

本研究では、『児童の権利に関する条約』に基づいて、児童の基本権利としての生存、発達、保護、参加という4つの面から、中国の農村孤児の生活状況を把握し、特に農村孤児が外部から見えづらく必要な支援を届けづらいう問題に焦点を当て考察する。

4 結果

まず、制度上の問題としては、孤児としてまだ認定されていない状態であることが指摘できる。数多くの事実上保護者のない農村孤児は政府側において、正式的な孤児として認められる手続きが煩雑であり、その結果、大半の農村孤児は未だにまだ政府側に登録されず、孤児として認められていない。その結果、政府からの公的支援はあまり受けていない状態である。

そして、生活の面での特徴としては、以下の点として明らかとなった。

第一に、孤児たちは常に貧困の問題に直面している点である。調査により、多くの農村孤児の家庭状況はもともと裕福ではなく、貧困の状態に置かれているといえる。そして、家の稼ぎ手がいなくなった後さらに貧困の状態に陥ってしまう。また、誰が孤児の養育責任を引き取っていくかについては、近年、家族構造の変化に伴い、これら農村孤児の受け皿としては祖父母のほうに集中することようになったことが示された。だが、祖父母たちの生活基盤が非常に脆弱であり、もともと貧困状態に置かれている現象が多

い。孤児たちは常に貧困の状況に置かれていることが明らかになった。

第二に、祖父母の世話を積極的に行っていたことであった。祖父母は孤児を引き取って、育児責任を負っている。それと同時に、「孝」の観念によって支えられている祖父母の扶養義務についても孤児たちが自ら積極的に祖父母のケアや家事の責任を負っていることが明らかにされた。特に、女兒でその傾向がみられ、ジェンダーの構造も明らかにした。

第三に、学校の側面からみると、学校側の支援が大きかったことである。特に教員側は孤児の支援において大きな役割を果たしていたことが分かった。

第四に、教育機会の喪失であることも明らかになった。学校側の支援があっても、家事、ケア、経済などの負担により、農村孤児たちは教育を断念せざるを得なくなるのが多い。

第五に、貧困から脱出機会の少なさという点である。その教育機会の失いに伴って、仕事や結婚の場においても大きな不利益がもたらされてきた。

このように、農村孤児たちは前の貧困状態から脱出できる機会はますます厳しくなった状況に置かれている。

5 考察

現段階の児童福祉政策では十分に農村部の孤児らの基本的生活を保障できていないと言える。冒頭で述べた通り、農村部の孤児は全国孤児総数の約86%を占めている。従って、これら圧倒的多数の農村部の孤児に対して十分な児童福祉サービスを提供しなければ、真の意味で孤児問題を解決したとはいえない。

農村部において孤児が発生する要因のほとんどは生活の貧困であるが、各地域や各家庭によって様々な原因があるのも事実である。今回の事例により、共通して貧困の状況が悪化している状況がみられた。それは、もともと経済的に脆弱な生活のなか、何らかのアクシデントや出来事などが重なり合った結果起こっていたものであった。根本的原因是は戸籍制度によりもたらされた社会保障制度の格差と政府側の児童福祉への捉え方の問題にあると考えられる。

中国の戸籍制度の確立に伴い、都市戸籍保有者と農村戸

籍保有者は、同じ国民でありながら、異質の社会システムの中でそれぞれに生活し、異なった国民待遇を受けることとなっている。戸籍は出生地により、都市戸籍、農村戸籍に厳密に区分され、二元的社会構造が確立された。都市戸籍保有者は、食料分配制度、子女が公的教育を受けること、医療保険、年金などの社会保障制度の対象になる。それに対して、農村戸籍保有者は低いレベルの社会保障制度しか享受できない。所得の格差や社会保障制度の格差により、農村戸籍の保有者は生活や教育などの面において諸問題に直面することになる。

中国農村部において孤児が発生しやすいのは、社会保障制度の格差により農村部の親世代の生活が守られていないからである。データにより、農村部における孤児の発生理由で一番多いのは事故や病気による親の喪失である。親世代はほとんど低い給料の肉体労働に従事しており、危険も常に伴っている。そして何か事故や病気があったとき、安い保険料かつ給付がそれほど高くないため、医療費負担への不安から受診を控えた結果、治療の機会が失われ、死亡してしまい、子どもが孤児になる場合も少なくない。また、突然の病気や事故などで貧困に陥った家庭が、援助が迅速に行われないために貧困状況が悪化していく場合も少なくない。

そして、このような厳しい状況に置かれている農村孤児への支援は僅かである。政府側の児童福祉への捉え方は、まだ災害による生じた児童への緊急一時保護や障害を持っている児童への生活補助にとどまっている。しかも、ほとんどの政策は経済的保護が中心である。今回の事例からみると、中国の農村孤児が抱える問題を、国際的な基準である子どもの権利条約の基本的な理念である生存、発達、保護、参加などの権利に着目して考えると、教育や心身などにおける権利が侵害されていることがわかった。農村孤児の中では、経済的負担をはじめ、ケアや家事の負担も加わることで、勉強に興味を持たなくなって成績が低下、結果学校を中退し、祖父母の農業や家事をするか都市へ出稼ぎに行くという子どもも少なくない。その結果、その後の仕事や結婚の場においても様々な不利益に置かれるようになった。従って、農村孤児への支援は経済的な支援だけではやや不十分である。

近年世界各国において、「子どもの貧困」問題への注目が増えてきた。おそらく、中国の農村孤児もこの問題に直面している。格差の解消、戸籍制度の改革などは今後の政府の課題だが、その中でも特に農村孤児への直接的な支援は喫緊の課題となっている。今後、社会保障制度の整備や就学援助などをさらに充実させることは必要不可欠だと考えられるが、「子どもの貧困」の影響が多岐にわたっている以上、経済的な側面以外にも、中国独特の国情である伝統な家族観や子育て観を踏まえた何らかの支援策が講じられることが重要だと考えられる。農村孤児問題への支援策としては農村孤児問題の原因から、農村孤児を養育している祖父母への支援まで、マクロレベルから、メゾレベル、ミクロレベルに至るまで、様々な支援策の構築が必要だと考える。

6 主要引用文献

- 常州市民政部, 2018, 『常州市孤児愛護保障工作簡述』常州市民政部ホームページ, (2018年10月15日取得, <http://mzj.changzhou.gov.cn/>) .
- 高華俊, 2013, 『中国児童福利政策報告 2013』北京: 北京師範大学公益研究院.
- 国务院官房, 2010, 「孤児を対象とする児童福祉制度の強化に関わる意見書」中国国务院官房ホームページ, (2018年10月23日取得, http://www.gov.cn/xxgk/pub/govpublic/mrlm/201011/t20101118_62875.html) .
- 和泉広恵, 2006, 『里親とは何か—家族する時代の社会学—』勁草書房.
- 金潔, 2003, 「中国における里親委託の取り組み」『人間福祉研究』6: 27-38.
- 劉繼同, 2010, 『国家責任及び児童福利』北京: 中国社会科学出版社.
- 中山良延, 2004, 「日本の里親制度—どこにどんな問題があるか、解決の方向を探—」『里親制度の国際比較』ミネルブア書房.
- 全国人民代表大会常務委員会, [1991]2012, 『中華人民共和国未成年保護法』全国人民代表大会常務委員会ホームページ, (2018年10月23日取得, <http://www.chinalaw.gov.cn/article/fgkd/xf/f/20121100377788.Shtml>) .
- 沢山美果子, 2008, 『江戸の捨て子たち—その肖像』吉川弘文館.
- , 2017, 『江戸の乳と子ども—いのちのつなぐ』吉川弘文館.
- 瀬地山角, 1996, 『東アジアの家父長制—ジェンダーの比較社会学—』勁草書房.
- 尚曉媛ほか編, 2011, 『中国児童福利前沿 2011』北京: 社会科学文献出版社.
- 尚曉媛, 2012, 『中国児童福祉前端 2012』北京: 社会科学文献出版社.
- 沈潔, 2007, 「中国児童福祉の現状」『総合福祉』4: 31-41.
- 土屋敦, 2014, 『はじき出された子どもたち—社会的養護児童と「家庭」概念の歴史社会学』勁草書房.
- 津崎哲雄, 2004, 「イギリスの里親制度—社会の共同親理念 施策を実現するために—」『里親制度の国際比較』ミネルブア書房.
- 湯沢雍彦, 2004, 『里親制度の国際比較』ミネルブア書房.
- 中華人民共和国民政部, 2010, 「2010年社会服務發展統計公報」中華人民共和国民政部ホームページ, (2018年10月23日取得, <http://www.mca.gov.cn/article/zwgk/mzyw/201106/20110600161364.shtml>) .
- 中華人民共和国民政部, 2013, 「第4期社会保障統計報」中華人民共和国民政部ホームページ, (2020年8月15日取得, <http://files2.mca.gov.cn/cws/201402/2014020810034586.htm,2014-02-8/2014-03-27>) .
- 周潔, 2014, 「南京女児餓死事件からみる中国の児童福祉制度」『青年学報』2: 13-4.